

届け！私の一票

私と政治をつなぐ

夏がはじまる



平成28年6月に施行された改正公職選挙法により、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられて6年。これまでに多くの若者が新しい有権者として、その一票を投じてきました。一方で、投票しない若者も少なくないのが現実です。総務省の調査によると、選挙年齢引き下げ後、はじめての国政選挙となった平成28年7月の参議院議員通常選挙で46.78%を記録した10代の投票率も4年後には32.28%まで低下。20代の投票率（30.96%）に次ぐ低さとなりました。

選挙は、私たちと政治をつなぐものです。あなたが投じる一票が、毎日の暮らしを左右します。未来を担う若者たちに選挙の大切さを伝えるための取り組みをお伝えします。

■今、選挙を考える

日本ではじめて選挙が行われたのは1890年（明治23年）7月の第1回衆議院議員総選挙です。当時、女性には政治に参加する権利が無く、男性も直接国税を15円以上納めている25歳以上の人に限られるなど、選挙は日本国民の約1%の人だけのものでした。その後、徐々に要件が緩和され、25歳以上の男性全てに選挙権が与えられたのが1925年（大正14年）。女性の参政権が認められたのは、それから20年も経った1945年（昭和20年）で、この時に選挙権年齢が20歳に引き下げられています。

2016年（平成28年）には、人口減少社会の日本を担う10代の若者たちにも政治参加してほしいとの思いから、18歳・19歳に選挙権が拡大。全国で240万人の有権者が新たに誕生しました。選挙はあなたが政治とつながるかけがえのない機会です。選挙を通して政治に声を届けることが求められています。

■世代間の投票格差

総務省の調査による年代別投票率（資料1）を見ると、

■町選挙管理委員会が行う甲佐高校での出前授業



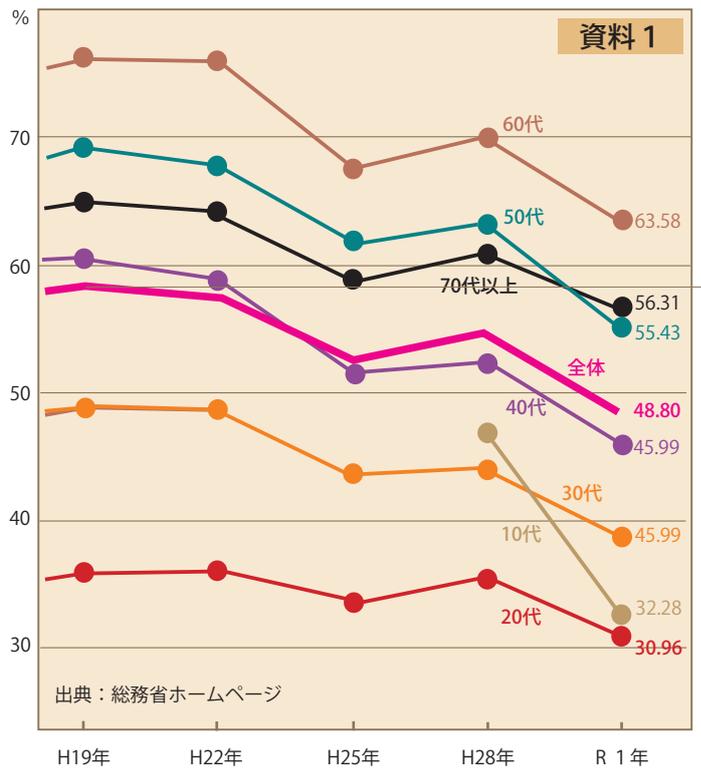
選挙で考える
私たちの暮らし

甲佐町選挙管理委員会
本田 奈美子 参事

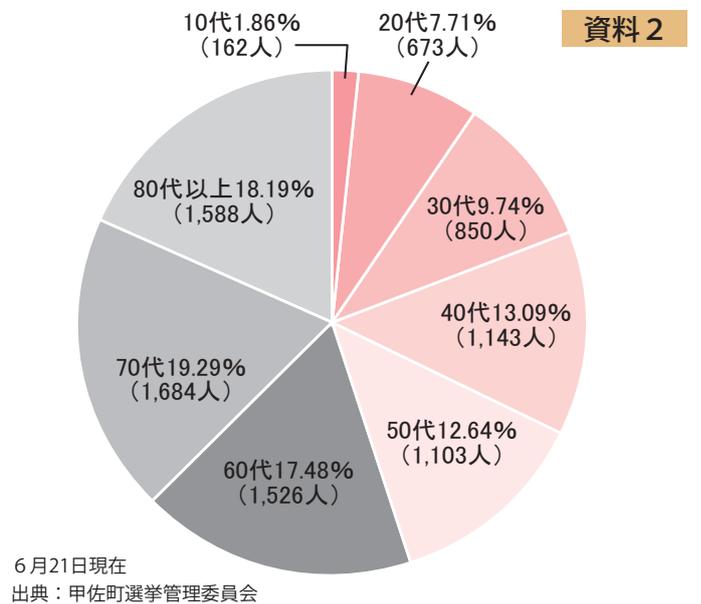


甲佐町選挙管理委員会では、18歳から有権者となる甲佐高校3年生に向けて、選挙を身近に感じてもらうための出前授業を開催しています。社会との関わりが限定的な高校生が「選挙に関心が持てない」とか「誰に投票したらいいかわからない」といった意見を持つのは自然なことかもしれません。しかし、これからの社会を支えていくのは若者世代の皆さんです。進学や就職を控えた高校3年生が社会について理解を深めるためにも、選挙について考えてみてください。政党や候補者が自らの考えをSNSやインターネットで発信しています。あなたの声を話すことができる候補者を見つけましょう。

■参議院議員通常選挙における年代別投票率（全国）



■第26回参議院議員通常選挙の有権者比率（甲佐町）



日常の中で政治とのつながりを直接感じることは少ないかもしれませんが、私たちの暮らしを取り巻く道路などの社会基盤整備や年金・医療などの社会福祉、少子高齢化問題や環境問題など多くの課題が政治に左右されています。あなたの暮らしを守るためにも選挙に行きましょう。

■選挙は未来への投資

若者に向けた政策を積極的に実施してもらうためにも、選挙に参加し、声を届け続けることが大切です。

前回の参議院議員選挙では60代が最も高く、唯一60%を上回っています。しかし、10代・20代の投票率はその半分程度しかありません。若い世代での投票率が高くないのは、本町でも同様です。平成28年の参議院議員選挙における本町の10代の投票率は39・1%と全国平均（46・78%）を下回りました。一方で、現在の本町の世代別有権者数（資料2）を見ると、10代と20代の有権者数を合わせても町全体の1割にも満たないことがわかります。投票率が低いままでは、貴重な若者の声を政治に届けることが難しくなってしまいます。若者に向けた政策を積極的に実施してもらうためにも、選挙に参加し、声を届け続けることが大切です。

模擬選挙で投票を身近に



■ 模擬選挙で学ぶ投票の意義

若者の投票率が低迷する中、(公財) 明るい選挙推進協議会が若年層を対象に行った調査によると、選挙に行かなかった理由の上位には「面倒だったから」や「選挙にあまり関心がなかったから」、「どの政党や候補者に投票すべきかわからなかったから」などが並んでいます。若い世代が選挙に参加しやすくするためにも、出前授業や模擬選挙を通して投票意欲を高める必要があります。

6月1日(水) 甲佐高校(堀川丞美校長)では、成人

年齢が18歳に引き下げられてからはじめて迎える国政選挙を前に、生徒会役員選挙を兼ねた模擬選挙が行われました。同校では、約6年前から実際の選挙で使用される投票箱などを用いた模擬選挙を毎年実施。生徒たちが一票の大切さについて学んでいます。

投票に先立ち、堀川校長が「しっかりと考えて一票を投じてください。実際の選挙に備えて準備をしておきましょう」とあいさつ。生徒たちは順番に入場券を受付で投票用紙と交換。記載台で候補者の氏名を記入し、投票箱に投函しました。

模擬投票を通して有権者の自覚を

甲佐高校 公民科教諭
小嶋 誠 先生



甲佐高校では、生徒たちが有権者としての自覚を持つきっかけづくりに取り組んでいます。模擬選挙は、甲佐町選挙管理委員会から実際の選挙で使う投票箱や記載台を借りて実施します。学生生活の中で本物に触れることで、有権者として社会と関わる意識を高めてほしいです。

甲佐高校3年生が考える「選挙」

公職選挙法の改正から6年が経ち、18歳からの選挙参加が当たり前となりました。今年度からは、成人年齢引き下げに伴い、大人としての判断も求められている高校3年生たち。大人の一步を踏み出しはじめた彼らが「選挙」についてどう考えているのか聞いてみました。

若い世代の声を政治に届ける

甲佐高校3年
原 琉樹 さん(熊本市)



模擬選挙を体験して、投票は手軽で簡単だと感じました。それほど時間もかからないので、買い物などの外出のついでに投票所に立ち寄ればいいのではと思います。僕は進学を希望しているので、選挙公約を確認して、教育格差のない社会の実現につながる候補者を選んで、投票したいです。

コロナ禍で知った私と政治とのつながり

甲佐高校3年
伊藤 悠莉 さん(下横田区)



コロナ禍で実施された臨時休校やワクチン接種などを通して、政治が私たちに身近なものなると知りました。毎日の暮らしを良くするためにも、私たちが政治に無関心ではいけないと感じます。まずは候補者や政党などについて、家族と話し合うことから始めてみようと思います。

7月10日（日）午前7時～午後6時 参議院議員通常選挙の投票日

第26回参議院議員通常選挙では、「候補者名」を記載して投票する選挙区選挙と「候補者名」または「政党名」を記載して投票する比例代表選挙が行われます。

1. 対象者

平成16年7月11日以前生まれで、令和4年3月21日までに甲佐町に転入届を提出し引き続き住んでいる人 ※投票当日に甲佐町の選挙人名簿に登録されている必要があります。

2. 代理投票・点字投票

手や目が不自由で字を書けない人のために、代理投票や点字投票の制度があります。

- ・代理投票 投票所の職員が代理であなたの意思を代筆します。
- ・点字投票 点字器を使って投票ができます。希望する場合は、投票所で申し出てください。

3. 期日前投票

仕事や病気、レジャーなどで投票日に投票できない人のために設けられた制度が「期日前投票」です。7月10日（日）に投票ができない人は、住所地に郵送された「投票所入場券」（裏面の「期日前投票の宣誓書」に記入したもの）を持って、下記の期日前投票所へお越しください。

- ・場所 町役場1階・ギャラリーモール
- ・日程 6月23日（木）～7月9日（土）午前8時30分～午後8時

4. 不在者投票

次のいずれかに当てはまる場合は、それぞれの場所で不在者投票ができます。申請の方法や期限などの詳細は、あらかじめ町選挙管理委員会へお尋ねください。

- ・仕事や旅行などで遠隔地に滞在し、甲佐町で投票ができない場合
→ 滞在地の選挙管理委員会
- ・都道府県の選挙管理委員会指定の病院などに入院・入所中の場合
→ 入院・入所中の病院など
- ・投票日には18歳を迎えるが、期日前は投票時点で未だ17歳の人
→ 期日前投票所（町役場1階・ギャラリーモール）



■選挙について友人や家族と一緒に考えよう

この夏行われる第26回参議院議員通常選挙は、成人年齢が引き下げられて最初の国政選挙です。18歳成人となった彼らには、大人として社会と積極的に関わるのが求められます。選挙で自らの考えを政治に届けることは、社会参加の入口です。

世界で最も高齢化が進む私たちの国は、社会そのものを維持していく上で、世界がまだ経験したことのない大きな課題を抱えています。それらを解決し、暮らしを守るためにも、若者たちが自ら考え、行動することが必要です。選挙は、その第一歩。あなたの声を届けるために、その一票を投じてください。

誰に投票したらいいか迷ったときは、学校の先生や友人、家族に相談してみよう。身近な先輩たちがきつとあなたの力になってくれるはず。あなたと政治をつなぐ夏が、はじまります。

▼お問い合わせ先

甲佐町選挙管理委員会
（町総務課内）

☎096・234・1140
（内線222）